シンポジウム | 特別講演

認定制度・摂食嚥下リハビリテーション合同シンポジウム
学会専門医って私にとって必要ですか？
- 日本老年歯科医学会認定制度の重要性と必要性を理解する！-

座長:松尾 浩一郎(藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科)、戸原 玄(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)
Sat. Jun 23, 2018 1:00 PM - 2:30 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【松尾 浩一郎先生略歴】
1999年　東京医科歯科大学歯学部卒業
1999年　東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野入局
2002年　ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション講座研究員
2005年　ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション講座講師
2008年　松本歯科大学障害者歯科学講座准教授
2013年　藤田保健衛生大学医学部歯科教授
2018年　藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科学講座教授
日本老年歯科医学会 指導医，摂食機能療法専門歯科医師，理事
日本障害者歯科学会 認定医，理事
Dysphagia Research Society　理事
International association of dentistry and oral health　評議員

【戸原 玄先生略歴】
1997年　東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1998～2002年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系専攻高齢者歯科学分野大学院
1999～2000年　藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生
2001～2002年　ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生
2003～2004年　東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科医員
2005～2007年　東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科助手
　東京医科歯科大学歯学部附属病院摂食リハビリテーション外来外来医長
2008~2013年 日本大学歯学部摂食機能療法学講座准教授
2013年～　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座高齢者歯科学分野准教授

【抄録】
超高齢社会を受け，歯科医療のニーズは急激に変化してきました。現在の高齢者歯科医療では，基本的な歯科診療技術に加えて，全身疾患や内服状況を把握し，栄養の知識も持ちながら，摂食嚥下障害への対応も求められます。このように対象患者の多様化に対応するためには，卒前の基本教育だけでカバーするのは難しく，継続的な卒後教育が必要とされます。卒後のアドバンスドの高齢者歯科医療に関する研修システムの位置づけとして，日本老年歯科医学会では，「老年歯科専門医」と「摂食機能療法専門歯科医師」の2つの専門医制度が制定されています。本シンポジウムでは，2つの異なる専門医制度の重要性と必要性についてわかりやすく解説し，実際に専門医となった先生がどのように地域で活躍されているかお話をしてもらう予定です。専門医を目指している先生も取得済みの先生も，本シンポジウムに参加していただき，学会専門医の今後の方向性についてもディスカッションしていただければと思います。

[S9-1]老年歯科医学会専門医は総合診療専門歯科医としての役割を果たせるか！

©Japanese Society of Gerodontology

〇奥山 秀樹[1] (1. 佐久市立国保浅間総合病院歯科口腔外科)

【略歴】
1982年　東京医科歯科大学歯学部卒業
1982年　昭和大学歯学部助手
1985年　佐久市立国保浅間総合病院歯科口腔外科医長
2011年　佐久市立国保浅間総合病院医療技術部長
日本老年歯科医学会指導医・認定医・代議員
日本静脈経腸栄養学会認定歯科医

超高齢社会のなかで，高齢者に対する歯科医療はますます重要になってきている。一方で歯周病をはじめとして，口腔の疾患が全身の疾患と大きく関わっていることが近年の研究で明らかになってきている。したがって，さまざまな全身疾患を有している高齢者に対し歯科治療を確実に行うことは，高齢者の全身的健康に大きく寄与できると考えられる。

病院歯科で長年多くの高齢者に対する歯科医療を実践するなかで，高齢者に対する確実な歯科医療には2つの重要な要素があると考えている。1つは口腔疾患に対する診断と治療のスキルである。もう1つは高齢者に対する理解である。

本シンポジウムではこうした2つの要素について考察を進めながら，あらゆる顎顔面疾患に対応でき，全身的な疾患を有する患者に対応できる総合診療専門歯科医（仮称）としての役割を当学会の専門医や認定医が果たすことがいかに重要であり必要であるかを提起したい。

©Japanese Society of Gerodontology